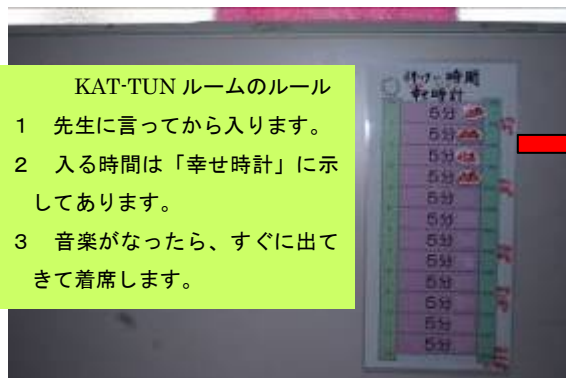


教材事例書式

教材教具名 時間のものさし（休憩時間「幸せ時計」）	教科（数学）	情報提供者（ 中学部3年生 ）
------------------------------	--------	-----------------

〈休憩時間 「幸せ時間」〉

〈KAO-TUNルーム〉



教材教具の概略（ねらいと使い方） ※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい
時間(分)の感覚を身に付けさせ、アナログ時計の時刻が読めるようになる。
- 2 発達段階など
数字を読むことができるが、アナログ時計の針を読むことがまだ難しい程度の時計の理解力の児童生徒。特に、国語的には日常会話ができ、こちらの意図を説明するとだいたい理解できる程度の言語力を持っており、難しい漢字も読むことができ、読解力も身に付いているが、数に対しての抵抗感が強く、通常の時計の指導（アナログ時計とデジタル時計のマッチング等）が難しい生徒向き。
- 3 使い方
※準備物 単位キャラクター（1ききこ＝5分）、時間のものさし（1－5分、2－10分と対応）
 - ① 「KAO-TUNルームに行ってもいいですか？」と教師に本生徒が要求する。
 - ② 教師は了解し、本生徒に何ききこであるか伝える。（例：「2ききこだよ」）
 - ③ 教師が「〇ききこは何分？」とたずねる。
 - ④ 本生徒が時間のものさしを見ながら「〇分！」と答える。
 - ⑤ 本生徒がKAT-TUNルームで休憩する。
 - ⑥ 休憩終了の時刻＝授業開始時刻（音楽がかかる）になったら本生徒が自分からKAT-TUNルームから出てきて着席する。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）

○この教材を使用した生徒は、これまでアナログ時計とデジタル時計のマッチング(〇時、〇時半)に挑戦してきたが、数に対する抵抗感から、なかなか実生活での活用が難しい状況であった。そこで、本生徒が自由に過ごすことのできる休憩時間に、この「幸せ時計」を使用することで、楽しみながら時間の感覚を身につけるとともに、アナログ時計の長針の読み方も習得できる工夫を行った。そのため、本生徒も「何ききこ？」と自分から教師に聞いたり、逆に教師に「3ききこは何分？」と聞かれ、時間のものさしを見ながら必死に答えようとしたりする場面が見受けられた。この取組を繰り返すうちに、ものさしを見なくても1ききこが5分であると答えられるようになってきた。

○数学的な学習(時計)を本生徒が得意な国語的な発想に転換したことで、数学的な抵抗感を少し取り除くことができ、時計の学習に取り組ませることができた。

○今後、アナログ時計とのすりあわせを少しずつ行い、慣れさせていくために、プリント学習にも取り組ませたい。